

NO.43 2020年6月発行

大阪YWCAシャロン千里通信

発行：大阪YWCAシャロン千里
〒565-0874 大阪府吹田市古江台 3-9-3
TEL 06-6872-0505 FAX 6872-0503
URL <http://www.ywcasharon.jp>

怖い！ 新型コロナウイルス

2020年の年明け、中国で怖い感染症が流行してるらしい…。
新型コロナウイルス肺炎という聞いたことのない感染症です。
それからあっという間に世界中に蔓延しました。
私たちの住んでいる日本にもです。
ダイヤモンドプリンセス号内での感染の拡大。
2月には大阪市内のライブハウスに行った人が次々と感染。クラスター発生だと…



3月24日には東京オリンピック延期の発表。えーっ！
クラスターによる感染を防ぐために3密を避ける必要があると…
卒業式も入学式も中止に。

3月29日志村けんさんが他界。えーっえーっ！
この頃から、コロナウイルスは感染力が強くてとても怖い、目に見えない敵であるとの意識が高まってきました。

4月7日に緊急事態宣言が発令されました。えーっえーっえーっ！
不要不急の外出は控えましょう…。あちこちで休業です。
日本はどうなるの？ 世界はどうなるの？ 目に見えない敵だけに不安はつのりします。マスク購入のための行列。消毒用アルコール・体

温計なども品切れ。シャロン千里でも入館制限を行い、感染拡大を防いできました。

止む無く休業要請により休業をしている所も多い中、シャロン千里は休むことなく、各部署ともリスクを抱えながらも感染防止対策を講じ職員皆使命感をもって精一杯頑張っています。

行政からのアルコールやマスクの支給。市民の方々からは手作りマスクのご寄付も頂き、本当に感謝しています。

入居者の皆様・利用者の皆様・ご家族様・大阪YWCA会員の皆様、色々な制約の中ご協力頂きましてありがとうございます。

皆様と職員一同この危機を乗り越えていきたいと思っています。

1日も早く治療薬やワクチンができることを祈りましょう。

コロナウイルス終息のあかつきには……と楽しいことを想像して、

今できることを工夫して楽しみましょう。まだまだ緊張した日々

は続きますが、もうひとふんばり皆で力を合わせて頑張っていきましょう!!

ご協力よろしくお願い致します。



施設長 松岡美智代

シャロン千里では新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、各事業の現場に沿った感染予防に取り組んでいます。2月から3月にかけては、感染予防対策について協議する日が続きました。特に4月7日の緊急事態宣言後は、日毎に厳しくなる現状に対応すべく感染予防の徹底と強化に力を注いできました。解除宣言を受けましたが、感染第2波への警戒もあり緊張の日々は続いています。

ケアハウスでは、新型コロナウイルスに対し、集団生活での感染のリスクを下げるため、様々な取り組みを行っております。職員の体調チェック、マスク着用、消毒の徹底はもとより、施設の清掃や消毒も強化しています。入居者の皆様については、食堂では従来の対面式から横並びのレイアウトでの食事と、食事の前後のマスクの着用をお願いしています。会話の少ない食事は寂しくもありますが、皆様のご理解のもと感染防止に取り組んでいます。不要不急の外出は控え、面会もやむを得ない場合のみ、体温測定、マスク着用、アルコール手指消毒にて行っています。3密を防ぐためケアハウスの様々なプログラムは休止となり、制約の多い生活を過ごされていますが、感染予防の意識を高く持たれ、不安も多い中、前向きにご協力頂いております。職員も入居者の皆様と無事にこの状況乗り越えよう、日々気を引き締めて業務にあたっています。

主任・相談員 本間裕紀子



デイサービスセンターが休むことなく開所させていただけることは、利用者様やご家族様のご協力によるものと感謝しております。当センターでは以前にもまして手洗い（来所時・食事前・おやつ前）の強化、そして設備や備品の消毒が欠かせなくなりました。利用者様にはマスクの着用や送迎前の検温などでご不便をおかけする毎日です。デイサービスでは、食事や入浴の他に機能訓練を活かしたレクリエーションがあります。身体を使うものや声を出すものなど様々です。マスク着用では息苦しくもあり、決して「肺の強化のために行っていることではないの」と思います。ご利用はご本人が必要とされるケースやご家族様の介護軽減の役割も担っています。



3月より感染予防効果を高めるため、ご利用者間の距離を保てるように利用者数を控えめにしながら運営しています。定員一杯まで、ご希望の方にご利用くださいと言いたい気持ちを抑えてスタッフ一同が奮闘の毎日です。

管理者 石橋 淳

厨房スタッフが1名でも新型コロナに感染すると、入居者の皆様やデイサービス利用者様のお食事の提供ができなくなる恐れがあるため、各自健康管理に留意しています。在宅勤務ができない業務柄、公共交通機関を利用している通勤者はマスク（施設内と施設外で使い分け）着用必須、ソーシャルディスタンスをとるようにしています。

出勤前は検温（体温のみならず体調に異状がある場合は早めの連絡）、出勤後及び業務中はこまめな手洗い及び手指のアルコール消毒の実施、マスク着用（ディスポの物が入手困難なため布製の物）、ディスポの手袋着用（これも入手困難なためタイミングを考えて着用し無駄使いしないように）、納入業者さんもマスク着用義務、フェイスシールド着用されている業者さんもおられます。納品回数を減らすなど対策を講じています。

管理栄養士 野口 円

シーンと静まり返った一人きりの事務所、数か月前までのにぎやかさが夢のようです。この事務所とは、**ヘルパーステーション**です。

コロナ禍によって、ヘルパーの皆様にご利用者様宅に直行、直帰をお願いしているからです。

訪問介護では、『一人も感染者を出さない』と、あれこれ対策をしています。自宅で体温を測り、熱があったら出勤しないこと。最悪の事態を考慮し、息子さんの発熱で1週間休んでもらったスタッフもいます。もちろん、サービス提供にあたっての手洗い、マスク・エプロンの着用、咳エチケットの徹底はしています。そういえば熱はないが、軽く咳が出ているというスタッフに2週間休んでもらったこともありました。事務所では換気の徹底、入室時に手指消毒をしてもらっています。手指消毒の回数が多く、お陰で手がカサカサになりクリームが手放せません。



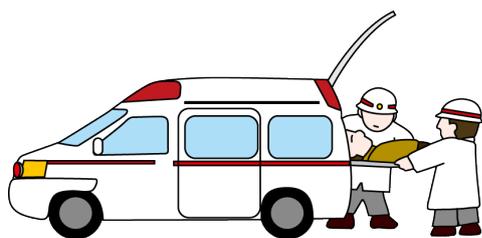
コロナ禍で不安なご利用者に心の安心を届けに、今日も元気にスタッフは走っています。

管理者 松嶋博美

「ちょっと困ったことがあるので家に来てほしいのですが・・・」

地域包括支援センターには地域の方から度々このような相談が寄せられます。

コロナウイルス感染拡大の真ただ中のある日、『困りごと』を抱えているとの電話。



自宅に訪問すると、高齢の男性が意識朦朧として仰向けに倒れていました。すぐに救急車を呼び無事入院となりましたが、3日後、男性がコロナ感染疑いでPCR検査の対象になっているとの連絡・・・！

私達は突然、『濃厚接触疑いの人』になってしまったのです。幸い、翌日には検査結果が陰性とわかりましたが、救急対

応を予測せずの訪問だったので不意打ちの出来事でした。

訪問時にはマスクを着用、状況が分からない時には手袋と上靴持参で対応しています。

今回のことで、この感染予防対策を徹底することの重要性を痛感した次第です。

センター長 戸口基子

ケアプランセンターでは、ご利用者様や介護保険事業所担当者の方々へ次のような点に注意を払い、感染拡大予防に取り組んでいます。

- ・「私たち自身が無症状の保菌者の可能性がある」という意識を常に持ちながら、ご利用者様宅訪問時には3密を避けるよう特に注意を払っています。
- ・熱発されたご利用者様宅へ訪問される介護事業所担当者の方が、感染に関わる不安を少なくサービス提供を行なえるように、迅速に医療機関との連携（受診や検査等）を図れるよう努めています。
- ・訪問系サービスや通所系サービスを利用されている方を対象として厚労省から布マスクが届きました。「緊急事態宣言下のこの時を一緒に乗り越えていきましょう」という思いを込めてご利用者様おひとりおひとりに布マスクをお届けしました。
- ・事業所内ケアマネジャー同士の3密を避けるために日曜出勤を取り入れた分散出勤を行なうと共に、これからの生活様式を意識して事業所内レイアウトの変更を行い、環境を整える作業も行いました。



管理者 山崎清美



吹田市では、政府の要請を受けて3月2日から小学校の臨時休校が始まりました。このため、**放課後児童育成室**は医療従事者や家庭での保育が難しい児童を対象に午前中臨時開室することになりました。登室する児童は全体の半分に減りましたが、子どもたちが狭い教室で1日過ごすに当たり、どのように感染拡大防止を図っていくのかが大きな課題となりました。

青山台育成室(ひまわり学級)では、吹田市の指導の下「3密を避ける」「消毒」を基本に対策に取り組みました。

子どもたちには、毎日の検温、石けんでの手洗い、マスクの着用を義務付けました。登室後すぐの手洗いは、初めころは声かけが必要でしたが、しばらくすると自主的にできるようになりました。お昼ご飯やおやつの前には手洗い後アルコールで手指消毒もしています。

教室の換気に心がけ室内では必ずマスクをつけるようにし、食事のときは部屋を二つに分けたり、テーブルを一行に並べて間隔をあけて座るなどの密接を避ける方法をいろいろ採用しました。

消毒については、開室前にテーブル、ドア、水道の蛇口、トイレ周りなどよく触る部分を消毒し、レゴやトランプなどのおもちゃの消毒も随時行いました。

臨時休校も3ヶ月になります。外で遊んでいると学校に出来ない子が通りかかりフェンスの外から声をかけてくれます。早く学校が再開して、みんな一緒に遊べる日が戻ってくることを願っています。

主任指導員 平井佐津紀

こども館は、3月より休館しています。

自粛生活が続く中、何よりも心配なのは、お母さん達がシャロン千里に来れず、誰とも会えず、家の中という閉ざされた空間で、子どもとの生活に煮詰まり、ストレスが増大していくことです。

『親子でいきいきリレーションシップ』では、お母さん達に、今、できることはないか考え、ファシリテーターの松井洋子先生からメッセージを発信して頂いたり、個別にお母さん達にメールで様子を聞かせてもらいました。

「子どもにイライラして暴言をはいてしまい、自己嫌悪に陥っています」「子どもが荒れて悲しくなります」などの返事を頂きました。それでもお母さん達は、「松井先生にアドバイスしてもらったことを思いだして、平常心を心がけています」「自分の時間を持つ工夫をしています」「リレーションシップ再開まで頑張ります」など、前向きに頑張っている姿がありました。



再開の日にはお母さん達のケアを、これまで以上に丁寧にしていく必要があると強く感じました。

児童厚生員 北田真理子

募集!

介護職員初任者研修 (旧ホームヘルパー養成講座)

「高齢者の自立を支える」を基本視点に、ご利用者やご家族のお気持ちを第一に、ご利用者の健康と生活の質の回復や精神的支援に対応できる介護職を養成します。週1~2回の通学学習92.5時間と自宅での通信学習37.5時間で履修できます。

日時 2020年**6月24日**(水)~**8月26日**(水) 9:30~17:15
場所 シャロン千里 費用 55,000円(2回分納可)

